

## 伏屋素狄の『実験記録ノート』 について

三宅宏司

伏屋素狄（一七四七—一八一）については、三木栄先生、中野操先生をはじめとする諸研究によって、明らかにされてきている。

素狄の名著『和蘭医話』や実験記録中にみえる多くの生理学的な研究は刑死体の解剖と、実験に負うところが大きい。当時の解剖の多くが観臓の域にとどまったのに比して、素狄らのグループ（斉藤方策、大矢尚斉ら）が、形態学的知識から、生理学的な知見の獲得へと進んでいったことに対する評価も多くなされてきた。

彼、素狄の残した『実験記録』ノートについては、三木栄先生の研究（『医譚』復刊七号（通巻三四号）、三八—四〇頁、一九五五）によって、その記載内容の解明がなされたが、その中で「歐人解体書の図の臨写」については、何書に

拠ったか未詳、将来の検索に俟つ」とされている。

今回、ヴェサリウス（一五一四—一五六四）の『ファブリカ』（一五四三年）中に、これらの図の原画と思われるものを多く見たので、これを報告する。

素狄が『ファブリカ』を見ていたかどうかは不明である。見ていないとすれば『ファブリカ』中の解剖図を原画としたものが、誰の解剖書であり、そのうちどれが日本に入ってきた、そのどれを素狄が見ていたのであろうか。

江戸時代に渡来した解剖書中にのせられた解剖図の転載ルートを解明する手がかりを得るため、おおかたの御教示を乞う次第である。

（大阪教育大学）